



水道管の耐震化

上下水道局では、地震などの災害に備え水道施設の耐震化を進めています。
水道管の更新時には、“伸縮性”、“屈曲性”、“離脱防止機能”を備えた耐震管へと布設替えを行っています。(下図参照)



耐震管は、地震に強いだけでなく、津波や液状化などの二次災害、台風や豪雨などの自然災害でも優れた継手性能により被害を免れた事例が多数あり、今後も引き続き水道施設の耐震化を進め、災害に強い安全・安心な水道施設整備に取り組んでいきます。

(自然災害に耐えた事例)



写真出典:「耐震継手ダクタイル鉄管が自然災害に耐えた事例集」-台風・豪雨・津波等による災害- 水道産業新聞
提供:一般社団法人 日本ダクタイル鉄管協会

水道施設の耐震化率情報

主要な管(基幹管路)※1が約119 k m、その他の管(配水支管)※2が約710 k m、全体で約829 k m有ります。現在の主要な管の耐震化率は27.0%、配水池の耐震化率は91.3%、ポンプ場の耐震化率は100%となっており、今後も引き続き水道施設の耐震化を進めていきます。

H30年3月末現在

※1 口径300mm以上 ※2 口径300mm未満

【お問い合わせ】 水道工務課 TEL:941-7807